



1927年に開設した
ライオン・デンタルセンター

第2章

歯科診療の 発展に貢献する

～ 歯科診療活動 ～

小林商店は、「ライオン講演会」などを通して口腔衛生思想の普及に務めるとともに、歯科診療活動にも進出。国内初の児童向けの歯科診療所の開設や、予防歯科の普及など、日本の歯科治療の発展に大きく貢献しています。

日本の近代歯科医療の幕開け

外国人歯科医師に学んだ最新医療

1860年、日本に初めて渡航してきた
米国人歯科医師W・C・イーストレキ。
横浜での開業時に、長谷川保兵衛が助
手を務め、後に歯科医師となった。



「東京歯科医師会100周年史」東京
歯科医師会発行より転載

小林富次郎商店が「ライオン歯磨」を発売した1890年代、日本の歯科診療は、近代化へ向けた黎明期にあった。それまで、日本での歯科治療は、漢方医の中で口内の治療を行う者や拔牙を専業としていた歯拔師、義歯を製作していた入歯師などによって支えられていたが、江戸時代の末期に海外との交易が始まると、欧米の歯科医師が次々と来日。横浜などで居留する外国人を相手に開業し、次第に日本人の治療も行うようになった。また、その技術を習得するために、弟子入りする日本人も出てきた。国の近代化を急いでいた明治政府は、こうした先進的な西洋医学をいち早く取り入れようと、1875年(明治8年)に西洋医学を基本とした医術開業試験を開始。外国人医師に師事した小幡英之助おばたえいのすけが日本人初の歯科医師となった。その後、歯科医師数は徐々に増え、初の全国組織である大日本歯科医会(現在の日本歯科医師会)が設立された1903年には、394人。さらに1907年には1913名と大きく増加し、全国のほとんどの主要都市には歯科診療所が開設されるようになった。

日本に児童専用の歯科医院を

「ライオン児童歯科院」の開設

東京京橋区山城6番地（現在の中央区銀座）に開設された「ライオン児童歯科院」。



各地で歯科診療所が次々と開設されるなか、ライオンの歯科診療活動の第一歩となったのは、国内初の児童専門歯科医院の開設だった。きっかけは、米国に視察に出かけた小林商店の重役・神谷市太郎が、ボストンのフォーサイス児童歯科治療院やニューヨークのロチェスター歯科診療院など、米国の児童専門の歯科診療所に深い感銘を受けたことにある。「日本にもこのような施設を作りたい」。社内には時期尚早との声もあったが、神谷の熱意によって1921年（大正10年）「ライオン児童歯科院」の開設が発表された。しかし、思わぬことに、周辺地域の歯科医師会から反対の声が上がってしまう。当時は、第一次大戦の戦後恐慌下であり、経営に苦しむ開業医が多かった。さらに、企業による職域実費診療所も増え始め、開業医たちはこのような歯科院の増加に危機感を募らせていた。そこで神谷は、ライオン講演会を担当していた緑川宗作とともに開業医を説得してまわる。歯科院の目的は「子供の歯の清掃とむし歯予防」であり社会貢献の一環であることを粘り強く訴え続け、ようやく3ヵ月後に診療を始めることができた。

12年間で約54万人の児童を診療

「ライオン児童歯科院」の初代院長には、当時小林商店に籍を置き、後に学校

おかもと きよよぶ

歯科活動の普及などに活躍する岡本清纒が就任。合計3名の歯科医師によって1921年に診療をスタートした。児童専門の歯科医院にふさわしく、治療椅子は児童の体に合わせた専用椅子をわざわざ輸入して設置。後にレントゲン装置も導入するなど設備を徐々に充実させ、専門の歯科医師も増員。開設当初は、1日の患者数は45名程度だったが、1年後には約120名に増加するなど年を追うごとに信頼を深め、1933年までの12年間で約54万人の児童を診療した。

関東大震災の救援活動

1923年9月1日、東京を襲った大地震は「ライオン児童歯科院」にも甚大な被害を与えた。歯科院は、屋上に翻っていたシンボル旗もろとも焼け落ちる惨状となったが、スタッフの総意で、自らの復興より市民の救援活動を優先。急遽、歯科救護班3班を組織し、東京市内3カ所で1カ月間、無料歯科診療所を開設した。テント張りの簡易な施設でありながら、約7200名の被災者を診療し人々に安心を届けた。

関東大震災時に、「ライオン児童歯科院」が開設した臨時の無料歯科診療所。



日本初「口腔衛生婦」の育成

国の施策を20年も先行

口腔衛生婦も活躍する「ライオン児童
歯科院」の治療のようす。



「ライオン児童歯科院」は、院内で診療を行うだけでなく、口腔保健活動の新たな拠点としても大きな役割を果たした。学校教職員への指導や巡回診療、ライオン子供大会などその活動は多岐にわたる。また日本で初めて、現在の歯科衛生士にあたる口腔衛生婦の育成を行ったのも「ライオン児童歯科院」の偉業のひとつ。当時の米国では、口腔衛生婦が「準歯科医」として活躍していたことから、いずれ日本でもそのような人材が必要になると予想し、解剖学、病理学、看護学などの専門授業を行う養成コースを開設。1922年（大正11年）から1938年までに29名の口腔衛生婦を世に送り出すことができた。これは1949年に、国が歯科衛生士の養成を開始する実に20年以上も前のことだった。

大女優 山本安英が口腔衛生婦として活躍



1922年、歌舞伎俳優二代目市川左團次主宰の「現代劇女優養成所」に所属していた山本安英は、舞台稽古をしながらライオン児童歯科院で口腔衛生婦として活躍。その後、戯曲「夕鶴」で文部大臣賞を受けるなど本格的な舞台女優として羽ばたいていった。

ひろがる、民間企業の活動

クラブコスメチックスによる口腔保健活動

大阪市に開設された中山太陽堂・口腔衛生研究所の診療室。



「クラブコスメチックス100年史・百花繚乱」(株)クラブコスメチックス発行より転載。

大正時代の後期になると、口腔保健活動の輪は、次第に他のハミガキメーカーにも広がっていった。なかでも「クラブ歯磨」を発売していた中山太陽堂(現・(株)クラブコスメチックス)は、1923年に中山文化研究所内に口腔衛生研究所を設立し、多彩な活動を展開。子どもたちを対象にした歯磨き奨励活動を主体に、全国各地で学校巡回歯科診療を実施したほか、会社事務所や工場、軍隊などを訪問し、口腔衛生に関する講演や映画上映を行った。さらに、1927年頃からは、歯科診療の器具を備え付けた自動車で、全国の学校を巡回するクラブ自動車歯科診療班の活動も開始している。

また、歯科医療の仕事に就きたいと考える女性のために、歯科医学と口腔衛生に関する知識と技術の指導を行ったほか、中山太陽堂の本社があった大阪では、歯科診療所も開設。保存歯科、口腔外科、小児歯科、X光線科も備えた総合歯科医院として活動を行っていた。中山文化研究所は、1954年に閉鎖されたが、その活動は、日本の口腔保健活動の歴史に確かな足跡を残している。

時代を先取る予防歯科のはじまり

「ライオン・デンタルセンター」開設

1927年に四谷に移転した「ライオン
児童歯科院」。



関東大震災の後、「ライオン児童歯科院」は、1927年(昭和2年)に四谷区四谷見附へ移転。設備を一層充実させ、設立当初の夢であった治療科、充填科、矯正科、X線科という児童歯科診療のすべてをカバーできる診療体制を整えることができた。また、口腔衛生思想のさらなる普及をめざして、指導機関である「ライオン・デンタルセンター」を院内に開設。歯周病予防のための口腔清掃や歯石除去の普及に力を注いだ。これが、現在大きなトレンドになっている予防歯科活動の始まりであり、2013年に東京駅にオープンした「グラントウキョウオーラルヘルスケアステーション」につながる源流でもある。

「ライオン歯科衛生研究所」設立

「ライオン児童歯科院」は、その後、第二次世界大戦による物資不足により、やむを得ず活動を停止。その役割は、1964年に誕生した(財)ライオン歯科衛生研究所へ受け継がれた。

世界をリードする歯科センターへ

新宿・京王百貨店内にオープンした
「ライオン・ファミリー歯科診療所」。



〔財〕ライオン歯科衛生研究所〕は、非営利で口腔衛生に関する研究を行う研究部、各種団体への健康指導などを行う事業部、子ども専門の診療・相談を行う診療部から構成され、1964年には、活動の一環として新宿の京王百貨店に「ライオン・ファミリー歯科診療所」を開設した。歯科医15名、歯科衛生士15名をはじめとする充実したスタッフ陣と、最新鋭の診察台10台を備えた「ライオン・ファミリー歯科診療所」は、開設とともに連日大盛況となり、所員たちはあまりの忙しさにうれしい悲鳴を上げた。来所者の中には、1921年に開設された初代「ライオン児童歯科院」で治療を受けた老人が、孫の手を引いてやって来る光景が見られるなど、ライオンの児童歯科診療が、社会に深く浸透していることを物語るエピソードも伝えられている。

また当時、予防・診療と研究活動を兼ね備えた施設は「ライオン・ファミリー歯科診療所」を含めて、世界にわずか4カ所しかなく、さらに1966年には、5番目の施設として名古屋に「ライオン・ファミリー歯科診療所」が誕生。ライオンの歯科診療所は、日本国内のみならず世界をリードする施設でもあった。

さらに進化する歯科診療活動

歯科専門家の資質向上にも貢献

その後も、ライオンの歯科診療活動は進化を続け、1971年(昭和46年)には子どものむし歯予防に特化した「大阪ライオン・ファミリーコーナー」を現・ライオン(株)大阪オフィスの1階に開設。現在では成人も対象にした豊富な診療メニューを揃え、子どもから高齢者まで家族一緒に通える「大阪予防歯科ステーション」へと発展している。



最先端のオーダーメイド診療を行う「東京デンタルクリニック」。

また、「ライオン・ファミリー歯科診療所」は、新宿・京王百貨店から目黒に移転した後、2014年に「東京デンタルクリニック」に改称して五反田駅前に移転。車椅子で入れる「ケアルーム」や、血圧・心電図などをモニターしながら治療が受けられる「モニタリングルーム」など、最新設備を完備。一人ひとりのむし歯や歯周病になる危険度を調べて治療や予防を行うオーダーメイドの診療「リスクコントロール・デンティストリー」も開始した。さらに、歯科専門家向けの各種セミナーを積極的に開催し、歯科専門家の資質向上や技術向上にも貢献するなど、歯科診療の進化へ向けた挑戦を続けている。

お口の健康はライオンが守る。

企業が社会貢献活動の中で、本来の事業領域を超えて、医療分野にまで進出するケースはほとんど例がありません。ライオンは、それをいまから約100年前に行い、しかも日本初の児童専門歯科院を開設するという快挙を成し遂げました。人々の幸福に奉仕しようと願う先人たちの高い志と、未知の分野へも果敢に挑戦する勇気が、日本の歯科医療をリードし、多くの人々の歯と健康を支えてきたのです。